下野新聞
持続可能な物流キャンペーン

ハコブトチギ

物流から考える とちぎの未来

section 18
企画・制作／下野新聞社ビジネス局

2023年8月、宇都宮市と芳賀町を結ぶ次世代型路面電車（ＬＲＴ）が開業し、地域の移動は劇的な変化を遂げました。同時に浮き彫りになったのが、芳賀町内の停留場から同町内施設へ「人をハコブ」交通手段の確保でした。芳賀町の取り組みを紹介します。

ＬＲＴからその先へ

ＬＲＴを降りたら、すぐに次の移動手段が確保されている―。この安心感こそが、町外から観光客を呼び込む鍵となります。

芳賀町内にあるLRT停留場(芳賀・高根沢工業団地)

町は当初、ＬＲＴの結節点につながるバスの活用を観光客や町民に呼びかけました。さらに芳賀工業団地管理センター前と観光拠点である「道の駅はが」にシェアサイクルを導入しました。

しかし、バスの利用者は伸びずついに3月31日でバス路線が廃止に。シェアサイクルは、天候や起伏のある土地、返却場所の少なさといった課題が浮かび上がりました。

「乗合」の対象拡大

そこで、現在注力しているのが乗合タクシーです。

現在運行している「ふれあいタクシーひばり」に加え、町は昨年5月から朝(午前6～8時)と夕(午後5～7時)に、町内全域をカバーする乗合タクシーを実証運行しています。本来は今年3月31日までの予定でしたが、運行期間を9月30日まで延長しました。

延長に伴い新たに土曜・日曜・祝日の午前9時から午後6時という運行日時を設けました。また町民以外の人も利用できるようになりました。

これらは、観光客の利用も想定しており、山本篤町企画課長は「公共交通としての役割を強め、町民だけでなく来町者も利用しやすい乗合タクシーを目指す」と話します。

実証運行されている乗合タクシー

先進的な実験も

また、主に車を運転しない高齢者を対象にし、20年以上前から運行している外出支援のデマンド交通「ふれあいタクシーひばり」も利便性の充実を図っています。人工知能（ＡＩ）を活用した新システムの導入を決定し、新システムではＡＩが複数の予約状況をリアルタイムで分析し、最適な走行ルートを瞬時に算出します。

「待ち時間の短縮」と「運行コストの最適化」を同時に実現するこのシステムは、限られた車両台数でより多くの住民を運ぶための切り札となるでしょう。

町は、町内の自動車メーカーと協力し、公用車を使った運転支援システムの実験なども行っています。ＬＲＴをきっかけに、芳賀町の「移動の自由」を担保する試みは着々と進んでいます。

外出支援のデマンド交通「ふれあいタクシーひばり」

私たちはハコブトチギを応援しています

足利銀行 specialty logistics ロジスティクスチーム
株式会社サンコー SANKO Co.,Ltd.
あなたに、ベスト・ウェイ。 NEXCO 東日本
信頼ある情報・物流ネットを形成 BNT LOGISTICS NETWORK TOCHIGI COOPERATIVE 物流ネットワーク栃木協同組合
alpha create
ABCロジテム株式会社
ENESOU エネ創
河内運輸株式会社 真珠介護タクシー
北関東広運株式会社
栃木日野自動車株式会社
栃木陸送株式会社

ハコブトチギ 特設Webサイト
過去の連載はこちらからご覧いただけます
https://www.shimotsuke.co.jp/feature/special/transport-tochigi